

大会時・コロナ禍での取組

- ・2020年： 2020TDM推進プロジェクトに登録し、各種情報をもとに取組検討を開始

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約5割以上（管理部門は時差出勤）
- オフピーク通勤・・・早出・遅出は個人で選択して実施
- 会議等のオンライン化・・・社内外の会議や打合せもオンライン化
- 計画的な休暇取得の促進・・・お盆の時期に5日間一斉休業
- 書類等の電子化・・・徐々に電子化。納品書は電子化されメール送信に切替中。決済も電子化を推進中

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 発注数量の調整・・・在庫の発注も事前に実施
- 配送ルートの変更・・・大手運送会社に外部委託。検討は行うも、実際には変更なし
- 取引先との配送に関する調整
取引先に配送遅延に関するアナウンスを文書で配布

取組ポイント

- トップダウンで取組開始
- クラウド活用で作業
- 事前に月単位で勤怠スケジュールを提出。端末のログで勤怠管理
- チャットツールの活用によりコミュニケーションも確保

取組ポイント

- 週2回の発注を週1回にまとめて実施
- 事前に取引先へアナウンス

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

 テレワーク オフピーク通勤 会議等のオンライン化

物の流れ

 発注数量の調整

【東京2020大会を振り返って】

- ・東京2020大会が無観客となり、これに伴ってインバウンドがなくなり、人の動線も少なくなったため安心した。
- ・東京都から発信されたメールマガジン等は、千葉県/埼玉県の担当営業にも情報共有させて頂き、交通規制等による影響について注意喚起していた。
- ・自社は情報通信機器の専門商社であるため、コロナ禍となって以来、テレワークのための周辺機器の注文が殺到した。しかし、半導体不足や合成樹脂や鋼材等の値上がり等で原材料が入って来ない状況が続いている。
- ・テレワークが普及しても、「原材料が入って来ない」、近年の物流問題で「発送しても届かない」等、二重苦となっている。